

明治期から戦前期における「日覆い」とその意義

正会員 ○ 辻原 万規彦

1. はじめに

筆者らは文献1)と2)で、西日本と東日本に分布する都市のアーケードの成立と発展過程について整理し、さらに典型的な型式の変化時期と社会状況との関連についても考察を行った。また文献3)では、昭和10年における商工省による全国の商店街の調査結果を用いて、アーケードの原型である「日覆い」の分布が、西日本に偏っていたことを報告した。なお「日覆い」とは、主として道路の両側の鉄製の支柱に布製の覆いを渡し、必要な場合には、道路全面に広げ、不必要な場合には、折り畳めるようにした仮設性の高い施設である。

本報では、これらの既報を受けて、明治初期から戦前期にかけての「日覆い」について報告し、同時に「日覆い」と都市空間との関係についても考察する。

2. 大阪心斎橋における「日覆い」

昭和10年当時、大阪市内では全国の約1/5の「日覆い」がみられ、分布が偏っていた西日本の中でも特に多い。したがってまず、大阪の「日覆い」に着目する。

明治二十年八月四日付の坪内逍遙の日記⁴⁾によれば、江戸時代より大阪を代表する繁華街であった心斎橋筋で、明治20年には「日覆い」がみられた(下線部筆者)。

「(前略)昨日遊歩の際、まづ心斎橋通を通観したるに、総て道幅せまく 家屋小さきが多し 中には巍然として聳えたるもあれど 要するに驚くに足りず 向ふの屋根と此方の屋根との間に細引きをわたして日蔽ひをなすに便にす 道幅の広き東京に於てハ見ざる所なり(後略)」

また坪内の日記より数年あとはあるが、明治22年以降に撮影された写真(写真1および写真2^{5) 註1)})が残っている。この写真では、布製の「日覆い」が道路全面を覆っており、坪内が触れた「日蔽ひ」は、昭和10年当時の「日覆い」と基本的に同じかたちのものであることが推測される。

なお坪内は、明治20年当時、東京では「日蔽ひ」が見られないと述べ、文献3)でも触れたが、それは大阪に比べて東京の道幅が広いことによると指摘している。

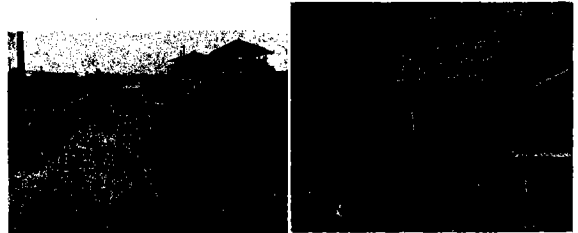


写真1 戎橋から見た心斎橋筋 写真2 「日覆い」部分の拡大

3. 法制度からみた大阪の「日覆い」

江戸時代より大阪では、道路敷に庇を掛け出す「おだれ」がみられたが、このために道路幅が狭くなり、度々規制が行われた。さらに明治になってからも、道路の往来妨害に関する行為を禁止する多くの規制が出された⁶⁾。このうち、道路の全面を覆う「日覆い」については、明治初期に次のような法令が出された(下線部筆者)。

・明治4年6月14日「道路橋上等取締ノ件」

「暑中、軒ヨリ軒ニ渡シ葭簀圍ハ、大通リハ不相成、小通リハ差免候、尤地上ヨリ高サ貳間半以下ハ、不相成候事」⁷⁾

・明治10年3月7日「違式註違條例施行ニツキ心得方ノ件」

「暑中全道日覆ハ、従前ノ通り高サ四間以上ニ可取候事」⁸⁾

明治4年の法令の「葭簀圍」は、明治20年に坪内が触れた「日蔽ひ」と同じもの、もしくはその原型かどうかは定かではない。しかし明治10年の法令には、「全道日覆」と明記されている上、「従前ノ通り」と述べられていることから、少なくとも明治10年以前から道路の全面を覆う「日覆い」がみられたと考えられる。なおこれらの法令からでは、「日覆い」が設置されていた場所は不明であり^{註2)}、今後の研究課題である。

4. 「日覆い」の各地への伝播

「日覆い」は、少なくとも明治10年以前には大阪市内でみられ、明治20年には心斎橋筋でみられた。また、遅くとも大正のはじめ頃には、同じく大阪市内の天神橋筋商店街でもみられた⁹⁾。さらに昭和10年当時では、大阪市内の12の商店街で「日覆い」がみられるようになった。

Historical Study on "Hidori" before World War II

TSUJIHARA Makihiko

京都市内では、明治43年に納屋町商店街で「鉄柱アーチ型全覆式」の「日覆い」が設置された¹⁰⁾。また錦市場商店街では、日露戦争（明治37年）の頃に「屋根には綿布の自在天幕を張渡し」¹¹⁾たが、当時の写真から判断すれば、鉄製の支柱はなく、木製のトラスを各店舗の1階の底の上のせ、その間に多数の竹を渡して、天幕を支えていた¹²⁾。

なお神戸市内については、昭和11年5月の「第一回神戸商業祭」の記念写真帳に「日覆い」を設けている商店街が多数見られるが、現在までのところ、昭和10年以前の状況は不明である。

こうして昭和10年には、京阪神の3都市に、全国の「日覆い」の約4割が分布することとなった³⁾。

5. 日覆いと都市空間の関係

江戸時代、商店などが日除けとして用いたものは、「長暖簾」や「日除け」などと呼ばれる暖簾であった。暖簾は各自の店先のみ掛けられるものであり、掛けるか掛けないかの判断や費用の負担は、各店舗のみの責任である。一方、「日覆い」は道路の全面を覆うので、少なくとも向かい側の商店の協力や費用の分担を必要とする。さらに、「日覆い」の比較的早い事例と考えられる写真1から判断すれば、同じ様なかたちの「日覆い」がある程度の区間で連続しており、日除けとしての効果がかかなり上がっていたと考えられる。したがって、街区単位で「日覆い」の整備を行ったことがうかがえ、商店街における共同体の存在を示唆する。

石原は、何らかの共同事業を行おうとして商店街の組織化への取り組みが行われたのは、昭和初期が最初であると指摘している¹³⁾が、これまでみてきた「日覆い」の整備状況を勘案すれば、組合などの法的根拠を持った組織化とまではいかないものの、かなり早い段階から商店街がゆるやかな共同体を形成していたことがうかがえよう¹⁴⁾。さらに、商店主たちが各自の店舗の利益のためだけではなく、通行人のためでもある施設として「日覆い」を整備したことは、当時の彼らの都市空間や公共空間への考え方を考察する上で非常に興味深いことと言える。

「日覆い」の成立の事情については、今後の研究課題ではあるが、「日覆い」の成立および発展過程を明らかにすることは、明治期から戦前期における商店主や一般の人々の都市空間や公共空間への考え方を明らかにする上で、有用な示唆を与え得ると考えられる。

6. まとめ

本報ではまず、明治期における「日覆い」について、

特に大阪の事例を、当時の日記、写真ならびに法制度の面から明らかにした。次いで、京阪神における戦前期までの「日覆い」の伝搬の様子を概観した。最後に、「日覆い」の成立発展過程を明らかにすることは、当時の人々の都市空間への考え方を明らかにする上で、有用な示唆を与え得ることを指摘した。

<脚注>

- 1) 原稿は、人工着色されている。文献14)では、1880年（明治13年）ころの撮影とされているが、写真に写り込んでいる電柱が建てられたのは、明治22年のことである。人工着色されたいわゆる「横浜写真」は明治30年代には衰退に向かうので、遅くとも明治30年代までの撮影と考えられる。
- 2) 文献15)では以下のように、心齋橋筋での「日覆い」の設置が早かったと述べられている。
「(前略)日覆いをなす、始め心齋橋筋等二三の小賣商店街に設置せるに過ぎずして大阪名物の一奇観と目せられしが(後略)」
- 3) 京都市の納屋町商店街では、「日覆い」建設時の事情について次のように述べられている。「納屋町進商會」は、商店街商業組合ではない商店会(町内会)ではあるが、「日覆い」設置に共同体の形成が必要であることがうかがえる。
「明治40年ごろになると、納屋町に日覆いを作る機運が昂まり、その建設のために納屋町進商會が誕生する運びとなる。中略)日覆いは、発展の推進母体である進商會とともに商店街の近代化への道を歩んでいった。」¹⁰⁾

<参考文献>

- 1) 辻原、小林、中村、外山：西日本における都市のアーケードの成立および発展過程、計画系論文集、第524号、pp.215~222、1999.10.
- 2) 辻原、小林、中村：東日本における都市のアーケードの成立および発展過程に関する調査研究、関東支部研究報告集、第69号、pp.493~496、1999.3.
- 3) 辻原、小林、中村：都市のアーケードの成立要因における東西日本間の比較、大会学術講演梗概集、pp.461~462、1999.9.
- 4) 坪内道逢：坪内道逢・若き日の日記—明治二十年八月 大阪名古屋紀行、演劇博物館ものがたり(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編)、pp.15~16、1998.10.
- 5) 横浜開港資料館、(財)横浜開港資料普及協会編：彩色アルバム 明治の日本(横浜写真)の世界、p.144、有隣堂、1990.3.
- 6) 石田、池田：建築線制度に関する研究・その3—明治初年の庇地制限について—、総合都市研究、第12号、pp.177~183、1981.3.
- 7) 大阪市：明治大正大阪市史、日本評論社、pp.204~205、1934.2.
- 8) 前掲7)、pp.536~537.
- 9) 奥村芳太郎編：なにわ今昔、毎日新聞社、p.50、1983.7.
- 10) 納屋町商店街振興組合20周年記念誌編集委員会編：帯刀 納屋町商店街振興組合20周年記念誌、納屋町商店街振興組合、p.13、1984.5.
- 11) 田中辨之：京都中央御賣市場誌 中篇、京報社、p.88、1927.8.
- 12) 米山俊直：四百年の伝承と歴史、くりま、昭和56年夏季号、No.5、pp.52~53、1981.7.
- 13) 石原武政：商店街の組織化—戦前の商店街商業組合を中心として(上)—、経営研究、第35巻、第6号、pp.1~3、1985.3.
- 14) 小沢健志編著：新版 写真で見える幕末・明治、世界文化社、p.13、2000.3.
- 15) 大阪市役所産業部産業課：大阪に於ける見本市並商店街、大阪市役所産業部産業課、p.48、1932.2.